

F. L. ライト設計(1924)

敷地はロサンゼルスを一望できる丘に位置し、絶好のロケーションを持つ。建物は16inのコンクリートブロックをユニットとして設計されている。当時の技術が彼に追い付けなかったという時代背景があり、そのしわ寄せは現在にも至っている。

デザインブロックと平ブロックの絶妙な組合せ、地平線まで見渡せる中庭、めまぐるしく変化する空間の抑揚、強弱、陰翳、そのバランスには感動の連続であった。建物のディテールひとつひとつを目で追いかけてみると、次々と飛込んでくる光景は、その光景ごとに一種のメッセージが発せられ、語りかけてくる。

この建築は人の手が加わったのだ、ここまで考えこまれたものなのだという声が、家具、スタンドグラス、タイル等の全てから聞こえてくる。

熟慮の末の結晶と呼ぼうか。その結晶ひとつひとつが集合することで、別のものにとって変わり、それが幾層にも重なり建物全体を構成しているように感じた。

徹底的に合理化された現代では、つくる者の姿が想像し難い。しかし、ここに身を置くと、かつての作り手を含む絵画が浮かんでくる。遠近法に忠実に、強い陽射しの中、当時のロスを背景にした色彩に乏しいぼんやりとした風景。そんな絵だ。無機質な材料で覆われた現代とは対比的に、時の洗礼を受けたものにのみ宿る一種の詩的メッセージのささやきが伝わってくる。

この空間体験は完成度の高い詩を読んでいるかのようなようだった

